

様式

技術名称	軟弱粘性土地盤の減容化工法	技術の分類	工法	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	真空圧密ドレーン工法:HK-060002
会社名等	五洋建設(株)	担当者	土木本部土木設計部 新舎博	連絡先	03-3817-7655
技術の概要	<p>浚渫土の処分場が全国的に不足しているのが実情である。そこで、処分場内に既に処分した浚渫堆積土を現位置で大きく減容化することができれば、その減容化量に相当する浚渫土をさらに処分することが可能となり、処分場の延命化につながると考えられる。</p> <p>そこで、浚渫土を処分した軟弱粘性土地盤を圧密によって減容化する方法として、プラスチックボードドレーン(PBD)を打設し、浸透圧(PDF工法)あるいは負圧(真空圧密ドレーン工法)を利用する工法を紹介する。</p>	添付資料	パンフの有無	有	
			その他の資料	学会発表、技術資料	
技術の特徴	<p>従来工法として、粘性土層にPBDを打設する方法があるが、この方法では粘性土層の自重圧密の促進を図るのみであり、減容化量が不十分である。一方、本工法は圧密荷重をさらに増加するものであり、次のように実施する。</p> <p>(1)中間砂層がある場合は浸透圧の利用 処分場内の水位は、護岸外の水位よりも数m高い場合が多い。処分場内の粘性土層の中に中間砂層があり、この砂層が護岸の外と通じている場合には、粘性土層に浸透圧が作用している。したがって、上端を密封したPBD(密封部分は粘性土層上面の1m下部)を中間砂層まで打設することで、圧密荷重に浸透圧を加えることができる。</p> <p>(2)中間砂層がない場合は負圧の利用 キャップ付ドレーンを利用した真空圧密ドレーン工法(NETIS参照)を用いる。真空ポンプの稼働により、粘性土層に65kN/m²の負圧を直接作用させることができる。これらの方法を用いることにより、粘性土層厚の10~20%の減容化を図ることが可能となる。また、減容化後の粘性土を再利用する際には、PBDは入っていない方がよ</p>	その他	*PDF工法と真空圧密ドレーン工法は特許工法。		

※複数の技術について発表をご希望の場合は技術ごとに記載願います。